

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成 27 年 1 月 15 日 (2015.1.15)

【公表番号】特表 2014-531258 (P2014-531258A)

【公表日】平成 26 年 11 月 27 日 (2014.11.27)

【年通号数】公開・登録公報 2014-065

【出願番号】特願 2014-531858 (P2014-531858)

【国際特許分類】

A 6 1 L 2/20 (2006.01)

A 6 1 L 9/03 (2006.01)

B 0 8 B 3/08 (2006.01)

B 0 8 B 3/02 (2006.01)

【F I】

A 6 1 L 2/20 G

A 6 1 L 9/03

B 0 8 B 3/08 A

B 0 8 B 3/02 F

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 26 年 10 月 31 日 (2014.10.31)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

包囲体により定められた領域を除染するための装置において、
その内部にチャンバを画定しており、前記チャンバに繋がる吸入口および排出口を有する筐体と、

キャリアガスを、前記領域から、前記筐体の前記吸入口を通して、前記チャンバを経て、前記筐体の前記排出口へと抜けさせて前記領域に戻して循環させる送風器と、

霧状にされた流体の噴霧を前記チャンバへと導入する噴霧器と、

前記筐体の前記排出口から出て行く前記キャリアガスを予め定められた方向へと転向させるために前記筐体の前記排出口に対して配設され、加熱素子を有する放散器と、を備え

ること

を特徴とする装置。

【請求項 2】

前記噴霧器へと圧縮ガスを供給する空気圧縮器と、

前記流体を保持する貯蔵器と、

前記貯蔵器から前記噴霧器へと前記流体を送り込むポンプと、をさらに備えたことを特徴とする請求項 1 に記載の装置。

【請求項 3】

前記領域内の前記キャリアガスの特性を示す信号を発する複数のセンサと、

前記装置の動作を制御し、前記キャリアガスへと注入される前記流体の最大流速を前記センサから受信した信号に基づき算出するために前記複数のセンサと接続された制御器と、をさらに備えたこと

を特徴とする請求項 1 に記載の装置。

【請求項 4】

湿度センサ、温度センサ、過酸化水素蒸気濃度センサのうち少なくとも 1 つが前記複数のセンサに含まれていること

を特徴とする請求項 3 に記載の装置。

【請求項 5】

前記複数のセンサが前記筐体の前記吸入口の上流に配設されていること

を特徴とする請求項 3 に記載の装置。

【請求項 6】

前記放散器の一部が前記筐体の前記排出口内に配置されていること

を特徴とする請求項 1 に記載の装置。

【請求項 7】

前記加熱素子が前記放散器の内表面上に配置されていること

を特徴とする請求項 1 に記載の装置。

【請求項 8】

前記放散器が漏斗状の形状であること

を特徴とする請求項 1 に記載の装置。

【請求項 9】

前記加熱素子が螺旋状の形状であること

を特徴とする請求項 8 に記載の装置。

【請求項 10】

前記放散器の一端が前記放散器の湾曲したフランジ部を形成すること

を特徴とする請求項 1 に記載の装置。

【請求項 11】

前記流体が過酸化水素であること

を特徴とする請求項 1 に記載の装置。

【請求項 12】

前記放散器が、前記筐体の前記排出口と前記領域との間に延びる流路の面の一つを画定すること

を特徴とする請求項 1 に記載の装置。

【請求項 13】

前記流路が、前記筐体の前記排出口を出て行く前記キャリアガスを、前記包囲体の床と略平行な方向に転向させること

を特徴とする請求項 12 に記載の装置。

【請求項 14】

前記流路が、前記筐体の前記排出口を出て行く前記キャリアガスを、前記筐体の前記排出口から径方向外向きの進路に転向させること

を特徴とする請求項 12 に記載の装置。

【請求項 15】

以下の処理を含むことを特徴とする、請求項 1 に記載の装置を用いて包囲体により定められた領域を除染するための方法。

a．前記送風器を用いてキャリアガスを前記領域から前記筐体の前記チャンバを通して循環させて、前記キャリアガスが前記筐体の前記吸入口を通過して、前記チャンバを経て、前記筐体の前記排出口を抜けて前記領域へと戻るように流す。

b．霧状にされた化学物質の噴霧を前記チャンバに前記噴霧器を用いて導入して領域内の外気温下で蒸気状の化学物質を形成し、前記放散器の前記加熱素子を用いて前記放散器を加熱して前記蒸気状の化学物質が前記放散器上で凝結しないようにし、前記蒸気状の化学物質が前記キャリアガスに連行されて混合気を形成するようにする。

c．前記筐体の前記排出口から出て行く前記キャリアガスを予め定められた方向へと転向させるために前記筐体の前記排出口に対して配設された前記放散器によって部分的に画

定される流路に沿って前記混合気を前記チャンバの外へ搬送して前記領域へと戻す。

【請求項 16】

前記霧状にされた化学物質の噴霧が前記チャンバへと導入される流速が、前記領域内の前記キャリアガスの特性に基づいて決定されることを特徴とする請求項 15 に記載の方法。

【請求項 17】

前記化学物質が過酸化水素であること
を特徴とする請求項 15 に記載の方法。

【請求項 18】

前記処理 c. に、前記混合気を前記包囲体の床と略平行な方向に転向させることが含まれること
を特徴とする請求項 15 に記載の方法。

【請求項 19】

前記処理 c. に、前記混合気を前記筐体の前記排出口から径方向外向きの進路に転向させることが含まれること
を特徴とする請求項 15 に記載の方法。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0002

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0002】

包囲体により定められた領域（例えばホテルの部屋、オフィス、実験室、建築物、巡航客船、空港ターミナルなど）を、過酸化水素蒸気などの蒸気状化学物質にその領域（およびその中の物品）を曝すことによって除染することがある。過酸化水素蒸気は、計量された過酸化水素水溶液（例えば重量にして約 30%～59%の過酸化水素）を蒸気化することで生成され得る。この過酸化水素蒸気は、キャリアガス（例えば空気）によって領域へと運び込まれる。ここで使う用語「除染」とは、殺菌、消毒のことも含めて生物学的汚染物を不活化することを意味するが、これに限定されるものではない。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0007

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0007】

本発明の利点として、蒸気状の化学物質を用いて包囲体により定められた領域を除染するための装置を提供する、ということがある。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0012

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0012】

本発明は、特定の部品の物理的形狀および部品の配置について、本明細書にて詳細に記載され本明細書の一部を形成する付属の図面に図示される好ましい実施形態をとることができる。

【図 1】包囲体により定められた領域を除染するための装置の概略図。

【図 2】図 1 における線 2 - 2 に沿った装置の断面図。

【図 3】図 2 に示す放散器の側方斜視図であり、放散器の蓋を取り外した図。

【図 4】図 1 における線 2 - 2 に沿った装置の部分断面図であり、本発明の別実施形態を

示す図。

【図 5】図 4 に示す実施形態における取り付け部品の拡大断面図。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0013

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0013】

ここで参照する図面は本発明の実施形態の一例を解説する目的のために図示するものに過ぎず、これと同一の形態に限定するものではなく、図 1 においては包囲体により定められた領域を除染するための除染ユニットの概略図を図示している。以下においては、領域を除染するために過酸化水素蒸気を用いるものに関して本発明を説明する。ただし、他種の化学物質を用いて領域を除染するようにユニット 10 を構成してもよいと認められる。

【誤訳訂正 6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0044

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0044】

上述したように、チャンバ 62 内で形成される空気/VHP 混合気は、チャンバ 62 から流路「P」を通して搬送される。具体的には、放散器 100 は、空気/VHP 混合気が流路「P」を通して所定の流速で流れる程度に、頸状部 72 から間隔を置いている。さらに、放散器 100 の外表面は、空気/VHP 混合気が所定の方向で領域へと排出されるように設計されている。実施形態の一例においては、放散器 100 は、図 1 に図示するように、空気/VHP 混合気が領域を定める包囲体の床に略平行な方向で排出されるようにする。この実施形態においては、放散器 100 は、空気/VHP 混合気がチャンバ 62 を通って搬送される方向から約 90 度、空気/VHP 混合気の向きを変えさせる。さらに、本発明の別実施形態では、放散器 100 は、空気/VHP 混合気がユニット 10 から径方向外向きの進路で領域へと放出されるように寸法決めされ、頸状部 72 に対して位置決めされる。

【誤訳訂正 7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0045

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0045】

このようにして本発明は、所望の向きで空気/VHP 混合気を領域へと排出させる放散器を備えた装置を提供する。ここで示す実施形態では、空気/VHP 混合気が包囲体の床と略平行に 360°の進行方向で領域へと排出される。所望の向きは、空気/VHP 混合気の領域への分散が最大化されるように選択される。また、領域への空気/VHP 混合気の分散を向上させるため、本発明の放散器は空気/VHP 混合気を径方向外向きの進路に転向させる。